

【情報理工学部】令和6年度 FD活動の「年間報告」

1. 学部独自のFD活動についての報告 (*は必須項目)

(1) 公開授業・ワークショップ

※公開授業と公開授業に関するワークショップが対象

①公開授業：

- ・科目『プログラミング演習B』
- ・担当教員：玉田・水口・荻野・宮森
- ・実施日時/場所：11月13日・20日・27日 / 10201・10202・10302・10403
- ・*参加人数 2名（職員・学生が参加した場合は内訳を記載してください）

②ワークショップ：

- ・実施日時/場所：11月27日（水）3限目 / 14113会議室
- ・*参加人数 21名
- ・ワークショップでの意見交換内容

必修プログラミング科目の言語が2024年度からPythonに変わり、学生の取り組み状況や、他の専門科目での教育内容や課題内容についての影響について

(2) その他研修会等

- ・コロキウム（談話会）3回およびOB講演会1回を実施
 - ・2024年7月24日「進化計算アルゴリズムを用いたニューラルネットの学習に関する研究」（本学部・岡田英彦教授）・約25人（学生10人）
 - ・2024年11月11日「機密実行環境による情報セキュリティ研究の最前線」（スイス・ヌーシャテル大学・Valerio Schiavoni教授）・約10人（学生5人）
 - ・2024年12月11日「設計とモノづくりの音感」（足立製作所所長・足立正氏）・約20人（学生10人）
 - ・2024年7月22日「うっかり同時接続数Steam歴代二位のゲーム（[パルワールド](#)）を作つたら、運用ワンオペですごいことになった件について～これからゲーム業界を目指す人向けにもいろいろ話します～」（OB中條博斗氏）・約60人（学生50人）

2. 総括（今年度の学部FDを通して得られた気づきや見つかった課題等）

必修科目の内容（プログラミング言語）を変更した初年度として、その授業準備や他科目への影響、プログラミング環境に関する課題について、学部内で情報共有ができた点でワークショップは有益だった。2025年度からは高校で情報科目新課程を受けてきた学生達が入学するので、2024年度入学の学生との比較を行ってゆける状況にもなった。コロキウムは先端的研究やモノづくりに関する最新事情を知る機会となり教員および学生にとって有益だった。また、OB講演会では日本中で話題になったゲーム開発の現場の裏事情や、一般的な大学生の就活とは違う情報系分野ならではの就活事情や有効手段について聞けた。これは本学部の教員が学生に専門的な仕事に就くことへのアドバイス・指導について有益な情報を得ることができたと言える。

令和6年度の当初計画では、カリキュラムの見直しや全10コースのカリキュラムツリー整備を予定していたが、十分に行えなかつたため、次年度以降も引き続き行う必要がある。

個別科目の改善策については、個別教員同士の意見交換等により以前に比べ改善が行われてはいるものの、学生の理解度や単位修得については明確な影響・結果が出ているわけではないため、引き続き取り組む必要がある。

留年率については、一時期より改善されているものの、学年による違いはあるため、修学支援（寺子屋）と学びの動機付けへの取り組み（ランチタイムトークや共創チャレンジプログラムなど）を通じて引き続き様子を見していく。

大学院進学プロモーションについては、大学院説明会の案内強化や、個別教員による研究室

学生への働きかけを強化した結果、進学者数はここ数年に比べ増え、効果はあった。だが、AI技術の発展・普及と共に、さらに高度なIT人材が社会で必要とされることから、より大学院進学率を上げるべきと言え、引き続き取り組む必要がある。

3. 次年度に向けての取り組み

高校の情報科目新課程で多くの教科書がPython言語を用いていることから、本学部の必修のプログラミング科目をPythonとしたが、実際に高校でどの程度の内容を行い習得してきたのか、またプログラミング能力向上にどう寄与するのか検証していく必要がある。2年次以上の科目でのPython対応についても実際に起こる問題・苦労などの情報共有を隨時行うこともカリキュラム見直しを行っていく上での重要な鍵となる。さらに、AIを教育支援に使うことで、プログラミングや専門科目の学びの方法が変わる側面もあるため、それらについても検討・実践をしていく必要もある。引き続き公開授業で学生の様子を観察しつつ、ワークショップおよびオンライン上で情報共有を行っていく。また、全コースでのカリキュラムツリー整備も引き続き取り組む。

一方で、高度IT人材育成強化に関連して大学院先端情報学研究科の入学定員を増やす予定であることから、情報理工学部からの大学院進学者を増やすための施策についても検討・実施していく。具体的には、各科目での大学院進学に関する学部教育内容の調整を行うほか、専門分野をより深く学びつつ実力を付けるためのきっかけ作りや機会の増加、ランチタイムトークや共創チャレンジプログラムを通じた学部生への進学の働きかけも行っていく。

※この内容は当該年度終了後、本学におけるFD活動の一環として、本学HPに掲載します。